

## ヨハネ 10 章 22-30 節

10:22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。

10:23 時は冬であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。

10:24 それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」

10:25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行いうわさが、わたしについて証言しています。

10:26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。

(and they shall...)彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

10:30 わたしと父とは一つです。」

はじめに

イエス様の本当の弟子はイエス様以外の誰にも従いません。イエス様は唯一、次のような発言が出来る方です。

ヨハネ8:12 「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

### 1. イエス様の声を聞くこと&それに伴う約束 (27-28節)

10:27 「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

イエス様の信者になる人は皆、気が付かないうちにイエス様の声に従って信者になります。その時には、自分の意志だけでイエス様を受け入れていると思っていますが、後から振り返ってみると、自分は導かれてイエス様の信者になったということが見えて来ます。

ヨハネ 6:37 「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」

イエス様の信者になる時、世界中で数え切れないほどの人がこの御言葉によって、助けられます。私もその一人です。

私は、イエスを受け入れた最初の2週間ほど悩みました。それは、ここに書いてある一部のことが分かっていなかったからです。「父が私にお与えになる者は皆、私のところに来ます。」の部分で

す。私は自分の意志だけでイエスのもとに来たと思っていたので、この約束は私のものではないかも知れないと思っていました。

ですが、この聖書の言葉を正しく理解すれば、大きな力になります。その意味はすぐ後の44節から書いてあります。

**6:44** 「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。

**6:45** 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる。』と書かれていますが、父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。』

誰も勝手に自分の意志だけでイエス様を信じるようにはならないので、この約束は全ての信者のものです。もっと詳しく言いますと、まだイエス様を信じていなくても、今これを聞いて信者になりたいと思うならば、そして今すぐイエス様を受け入れるならば、必ずイエス様に受け入れられます。神様がその思いを与えて下さっているから、それは自分から出た思いではないのです。「私は決してその人を捨てません。」と言う強い確信に溢れる約束はあなたのものになります。そしてその上に、今日の一番中心となる約束も同時にあなたのものになります。

**10:28** 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

**10:29** わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

**10:30** わたしと父とは一つです。」

この箇所は是非暗記して頂きたいです。イエス様と父なる神様は全く一つで、二人にとって唯一不可能なのは嘘をつくことです。絶対に最後まで私たちを守って、滅びることのないように天国に入るまで責任を取って導いて下さいます。

## 2. イエス様の声を聞き分けること&約束された導き。

**10:3** 「門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。

**10:4** 「彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのだから、彼について行きます。

**10:5** しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」

イエス様は一人一人を個人的に導きます。最初の27節にもありますが、イエス様は私達を個人的に知っているのだから、私たちは安心してついて行くことができます。私たち自身よりも私達をよく知っているのだから、全て任せて行けば絶対に後悔はしません。先頭に立って下さるので、イエス様を通らなければ、何も私達の人生に触れる事は出来ません。

イエス様は、旧約聖書の出エジプト記に書いてあることと同じ役目を果たして下さい。絶対に行き止まりにならない人生を与えて下さり、どんな時でも、どんな状況のなかでも、希望を失う事はないように、道のない所で道を開いて下さいます。さらには、しんがりとして後ろからの攻撃からでも守って下さいます。過去の事を全く気にしないで、いつも、前向きに前進出来るように導いて下さるのです。

最初のうちは聞き分けるのが難しい時がありますが、聞き分ける為に大切な事をいくつかの聖書箇所から学ぶ事が出来ます。

まず、私たちは他人を気にし過ぎないように気を付けなければいけません。つまり、他人は自分の事をどう思っているか、そして自分も他人は何をしているかを気にし過ぎてはいけません。

ヨハネ**21:19-22** 「これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

**21:20** ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。

**21:21** ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

ペテロは、イエス様と最も親しい関係にあって、ここで個人的に自分の人生の最後がどうなるのかを教えてもらっているのに、振り向いて別の弟子ヨハネがどうするか気にして、イエス様に質問しました。

21:22で「それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは私に従いなさい。」とイエス様は厳しく叱りました。なぜそこまで厳しく叱る必要があるのかを考えさせられます。答えは、イエス様に従う為には自分を他の人と比べて気にしてはいけないということにあります。イエス様に従う為には、自分とイエス様の関係だけに集中しなければなりません。他の信者がイエス様にどのように従っているかはあなたと全く関係ない、と教えられています。イエス様に完全に任せて自分の歩みに十分に集中しているなら、他の信者の事を気にする余裕はないはずです。しかも、他の人のことを気にしてしまうなら、周り合わせて生きるようになり、イエス様に従っていないと言うこととなります。ペテロはこんなにイエス様にはっきりと言われたのに、その後で失敗してしまいました。ガラテヤ2:11-12「ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。

2:12 なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。」

ペテロだけ初めて異邦人に福音を伝えるように特別な啓示を与えられたのに、このようになってしまいました。イエス様はこのことも含めてペテロをよく知っていました。イエス様は、あなたと私をも同じように、誰よりも知ってくださいますから安心して下さい。これらの事を全て最初から知っているのに、イエス様はペテロに対して諦めないで、最後まで彼を用いて下さったのです。

### 3. 最後まで従う&共にいてくださる約束 (10:11-13節)

10:11 「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

10:12 牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。

10:13 それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。」

イエス様がどんな時でも共にいて下さるという約束はもう既に見ました。今日、「私のところに来る人を私は決して捨てない」という約束も見ましたが、以前「決してあなたを離れない、捨てない」という約束も見ました。ですが、それでも、私達はこう思う事があります。「なぜ共にいてくださるなら、今の私の気持ちをわかってくれないのですか?」と。自分の事を神様がどうでもいいと思っているように思えるときに、この御言葉を思い出してください。

雇い人の羊飼いは羊が大変な目に会っても気にしないで逃げてしまいますが、イエス様はどれぐらい私たちを気にかけて下さっているかと言うと、それはご自分の命を捧げるまでです。自分の命を十字架で捧げることによって私達を自分のものにして下さったので、誰よりも私達の事を心にかけて下さっています。

最後までイエス様に従って行く為に、私達もその模範に習い、自分を捨てて十字架を負ってついて行く事が大切です。自分を捨てるという意味は、自分を完全にイエス様に明け渡し、自分の意志までイエス様に捧げるという事です。神様の導きが難しいと思うなら、それはまだ自分の思いや自分の願いを捧げ切っていないと言う事です。信者になってすぐにはそれが出来ませんが、イエス様は忍耐を持ってそれが出来るように助けてくださいます。それを実行出来るようになると、イエス様の声をすぐ聞き分けられるようになり、神様の導きが難しくなくなってきます。

使徒8：5-6 「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

8:6 群衆はピリポの話聞き、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。」

8:26 「ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」（このガザは今、荒れ果てている。）

8:27 そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピヤ人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、

8:38 「そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。」

ピリポは大勢の人々をイエス様に導いて、そして他の使徒達も来ましたが、ピリポは神様の声を聞いてすぐにそこを離れ、誰もいない所に行きました。そしてそこで一人のエチオピヤ人がイエス様を信じるように導き、その場ですぐ洗礼を授けました。

なぜこんなにはっきりと御声を聞き分けたかと言いますと、自分に意志を完全に捧げていたからです。普通なら誰でも、そのように用いられて大勢の人を導いたなら、他の働き人が来てもそんなに早くにそこから離れたくないですし、自分の働きを簡単に完全に他の人に任せることが出来ないものです。しかも、誰もいないような所に行きなさいと言われてたら、簡単には行けません。しかしピリポは自分の全てをイエス様に明け渡していましたから、明確に御声を聞いて、大きく用いられる器となりました。

まとめ

あなたは誰に従っていますか。自分の限られている知識や今までの人生経験に従っていますか。それとも、神様の真実を全く知らない科学者に従っていますか。それとも、周りの社会と調子を合わせてそれに従っていますか。そうでしたら、イエス様に従っているとは言えません。イエス様以外の人に従っているなら、必ず後悔する時が来ます。一方で、イエス様に従う人は絶対に後悔する事も、失望させられる事ありません。

使徒4:12 「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」

## ヨハネ 10 章 22-30 節

10:22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。

10:23 時は冬であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。

10:24 それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」

10:25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行いうわさが、わたしについて証言しています。

10:26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。

10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。

(and they shall...)彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

10:30 わたしと父とは一つです。」

はじめに

イエス様の本当の弟子はイエス様以外の誰にも従いません。イエス様は唯一、次のような発言が出来る方です。

ヨハネ8:12 「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

### 1. イエス様の声を聞くこと&それに伴う約束 (27-28節)

10:27 「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

イエス様の信者になる人は皆、気が付かないうちにイエス様の声に従って信者になります。その時には、自分の意志だけでイエス様を受け入れていると思っていますが、後から振り返ってみると、自分は導かれてイエス様の信者になったということが見えて来ます。

ヨハネ 6:37 「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」

イエス様の信者になる時、世界中で数え切れないほどの人がこの御言葉によって、助けられます。私もその一人です。

私は、イエスを受け入れた最初の2週間ほど悩みました。それは、ここに書いてある一部のことが分かっていなかったからです。「父が私にお与えになる者は皆、私のところに来ます。」の部分で

す。私は自分の意志だけでイエスのもとに来たと思っていたので、この約束は私のものではないかも知れないと思っていました。

ですが、この聖書の言葉を正しく理解すれば、大きな力になります。その意味はすぐ後の44節から書いてあります。

**6:44** 「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。

**6:45** 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる。』と書かれていますが、父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。』

誰も勝手に自分の意志だけでイエス様を信じるようにはならないので、この約束は全ての信者のものです。もっと詳しく言いますと、まだイエス様を信じていなくても、今これを聞いて信者になりたいと思うならば、そして今すぐイエス様を受け入れるならば、必ずイエス様に受け入れられます。神様がその思いを与えて下さっているから、それは自分から出た思いではないのです。「私は決してその人を捨てません。」と言う強い確信に溢れる約束はあなたのものになります。そしてその上に、今日の一番中心となる約束も同時にあなたのものになります。

**10:28** 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

**10:29** わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

**10:30** わたしと父とは一つです。」

この箇所は是非暗記して頂きたいです。イエス様と父なる神様は全く一つで、二人にとって唯一不可能なのは嘘をつくことです。絶対に最後まで私たちを守って、滅びることのないように天国に入るまで責任を取って導いて下さいます。

2. イエス様の声を聞き分けること&約束された導き。

**10:3** 「門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。

**10:4** 「彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているのです、彼について行きます。

**10:5** しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」

イエス様は一人一人を個人的に導きます。最初の27節にもありますが、イエス様は私達を個人的に知っているのです、私たちは安心してついて行くことができます。私たち自身よりも私達をよく知っているのです、全て任せて行けば絶対に後悔はしません。先頭に立って下さるので、イエス様を通らなければ、何も私達の人生に触れる事は出来ません。

イエス様は、旧約聖書の出エジプト記に書いてあることと同じ役目を果たして下さいます。絶対に行き止まりにならない人生を与えて下さり、どんな時でも、どんな状況のなかでも、希望を失う事はないように、道のない所で道を開いて下さいます。さらには、しんがりとして後ろからの攻撃からでも守って下さいます。過去の事を全く気にしないで、いつも、前向きに前進出来るように導いて下さるのです。

最初のうちは聞き分けるのが難しい時がありますが、聞き分ける為に大切な事をいくつかの聖書箇所から学ぶ事が出来ます。

まず、私たちは他人を気にし過ぎないように気を付けなければいけません。つまり、他人は自分の事をどう思っているか、そして自分も他人は何をしているかを気にし過ぎてはいけません。

ヨハネ**21:19-22** 「これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

**21:20** ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。

**21:21** ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」  
ペテロは、イエス様と最も親しい関係にあつて、ここで個人的に自分の人生の最後がどうなるのかを教えてもらっているのに、振り向いて別の弟子ヨハネがどうするか気にして、イエス様に質問しました。

21:22で「それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは私に従いなさい。」とイエス様は厳しく叱りました。なぜそこまで厳しく叱る必要があるのかを考えさせられます。答えは、イエス様に従う為には自分を他の人と比べて気にしてはいけないということにあります。イエス様に従う為には、自分とイエス様の関係だけに集中しなければなりません。他の信者がイエス様にどのように従っているかはあなたと全く関係ない、と教えられています。イエス様に完全に任せて自分の歩みに十分に集中しているなら、他の信者の事を気にする余裕はないはずです。しかも、他の人のことを気にしてしまうなら、周り合わせて生きるようになり、イエス様に従っていないと言うこととなります。ペテロはこんなにイエス様にはっきりと言われたのに、その後で失敗してしまいました。ガラテヤ2:11-12「ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。

2:12 なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。」

ペテロだけ初めて異邦人に福音を伝えるように特別な啓示を与えられたのに、このようになってしまいました。イエス様はこのことも含めてペテロをよく知っていました。イエス様は、あなたと私をも同じように、誰よりも知ってくださいますから安心して下さい。これらの事を全て最初から知っているのに、イエス様はペテロに対して諦めないで、最後まで彼を用いて下さったのです。

### 3. 最後まで従う&共にいてくださる約束 (10:11-13節)

10:11 「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

10:12 牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。

10:13 それは、彼が雇い人であつて、羊のことを心にかけていないからです。」

イエス様がどんな時でも共にいて下さるという約束はもう既に見ました。今日、「私のところに来る人を私は決して捨てない」という約束も見ましたが、以前「決してあなたを離れない、捨てない」という約束も見ました。ですが、それでも、私達はこう思う事があります。「なぜ共にいてくださるなら、今の私の気持ちをわかってくれないのですか？」と。自分の事を神様がどうでもいいと思っているように思えるときに、この御言葉を思い出してください。

雇い人の羊飼いは羊が大変な目に会っても気にしないで逃げてしまいますが、イエス様はどれぐらい私たちを気にかけて下さっているかと言うと、それはご自分の命を捧げるまでです。自分の命を十字架で捧げることによって私達を自分のものにして下さったので、誰よりも私達の事を心にかけて下さっています。

最後までイエス様に従って行く為に、私達もその模範に習い、自分を捨てて十字架を負ってついて行く事が大切です。自分を捨てるという意味は、自分を完全にイエス様に明け渡し、自分の意志までイエス様に捧げるという事です。神様の導きが難しいと思うなら、それはまだ自分の思いや自分の願いを捧げ切っていないと言う事です。信者になってすぐにはそれが出来ませんが、イエス様は忍耐を持ってそれが出来るように助けてくださいます。それを実行出来るようになると、イエス様の声をすぐ聞き分けられるようになり、神様の導きが難しくなくなってきます。

使徒8：5-6 「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

8:6 群衆はピリポの話聞き、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。」

8:26 「ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」（このガザは今、荒れ果てている。）

8:27 そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピヤ人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、

8:38 「そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。」

ピリポは大勢の人々をイエス様に導いて、そして他の使徒達も来ましたが、ピリポは神様の声を聞いてすぐにそこを離れ、誰もいない所に行きました。そしてそこで一人のエチオピヤ人がイエス様を信じるように導き、その場ですぐ洗礼を授けました。

なぜこんなにはっきりと御声を聞き分けたかと言いますと、自分に意志を完全に捧げていたからです。普通なら誰でも、そのように用いられて大勢の人を導いたなら、他の働き人が来てもそんなに早くにそこから離れたくないですし、自分の働きを簡単に完全に他の人に任せることが出来ないものです。しかも、誰もいないような所に行きなさいと言われてたら、簡単には行けません。しかしピリポは自分の全てをイエス様に明け渡していましたから、明確に御声を聞いて、大きく用いられる器となりました。

まとめ

あなたは誰に従っていますか。自分の限られている知識や今までの人生経験に従っていますか。それとも、神様の真実を全く知らない科学者に従っていますか。それとも、周りの社会と調子を合わせてそれに従っていますか。そうでしたら、イエス様に従っているとは言えません。イエス様以外の人に従っているなら、必ず後悔する時が来ます。一方で、イエス様に従う人は絶対に後悔する事も、失望させられる事ありません。

使徒4:12 「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」